東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第２学年 保健体育科学習指導案		授業者	谷　百合香
		授業学級	２年Ａ組（男子１７名，女子１７名）
授業テーマ	生命の安全教育～境界線から性的同意について考えよう～		

１．本時の目標

○「性の境界線」について理解し、「性的同意」をもとに意思決定をすることが、自分やパートナーを大切にすることになることを理解する。【知・技】

○「性の境界線」について、状況を踏まえて考え、パートナーや自分を大切にするために、どのように行動すべきか考える。【思・判・表】

○「性の境界線」について自分ごととして捉え、積極的に授業に参加し、今後の性行動の意思決定や行動選択につなげることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

２．本時の位置づけ

「生命（いのち）の安全教育」は令和３年度より、性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないための教育として推進されてきた。生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を、発達段階に応じて身に付けることが目指されている。

昨年度（中学１年）は、「生命（いのち）の安全教育」の一環として、「性への関心と行動～性情報への適切な対処とは～」として、授業①ではSNSを介した性暴力・性犯罪の可能性について、授業②では、痴漢（性犯罪）や身近な人からの性暴力としてデート DV 等を取り上げ、自分やパートナーを傷つけないための意思決定や行動選択についての実践を行ってきた。本時は、中学２年生を対象に、「境界線から性的同意について考える」として、性教育と関連させて発達段階に応じてどのような実践を行うことができるか検討していきたい。

３．本時の概要

（１）性の境界線と性的（性交）同意

自分と相手には様々な境界線があることをおさえた上で、「性の境界線」を中心に展開する。また「性的同意」を「非強制性」「対等性」「非継続性」「明確性」とし、どのような場合が「性的同意」に反するのか、自分やパートナーを大切にするために、どのような意思決定や行動選択が必要か考えさせたい。また、２０２３年に「性交同意年齢」を１３歳から１６歳に引き上げる法案が可決されたことを踏まえ、性犯罪に巻き込まれる可能性について取り上げる。昨年度の実践で例示した「グルーミング」に関連させることや「酩酊状態にさせる」「薬物の摂取」といった様々な手口の性犯罪について、被害者にも加害者にも傍観者にもならないための行動選択について考えさせ、今後の行動変容につなげていきたい。

（２）情報活用能力について

昨年度より保健の授業のベースにしているヘルスリテラシーとは「健康や医療に関する情報を入手し、理解し、評価し、活用（情報を使うことでより健康に結びつくような、よりよい意志決定を行うこと）する力」と定義されており（中山ら 2016）、ヘルスリテラシーのプロセスを図１のように示している。本実践では、相手との境界線、性的同意について理解し、自分やパートナーを大切にするための意思決定や行動につなげていくこととして捉えることができる。また万が一性被害に遭った場合、どのように対処すべきか調べ（相談し）、適切な対処（行動）につなげていくことが情報活用能力につながると考えられる。

図１　ヘルスリテラシーのプロセス（中山 2016）

４．本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
〈１．導入〉　（１０分） ○「境界線」とは何かを考える。 S：「人との距離感」「踏み込んではいけない領域」 T：自分と相手との間には目には見えない、勝手に入ってこられない、個人的な空間があり、その区切りを「境界線」といい、自分も相手も大切にするための「考え方」である。 ○自分のまわりにはどんな「境界線」があるか考える。 →ペアで相談する S:「からだの境界線」「心の境界線」 ○「境界線」には様々な種類があることを理解する。 →「からだ」「気持ちや考え方」「時間、空間」「持ち物」「性」の境界線がある。	・「生命（いのち）の安全教育」の一貫で行う授業であることを伝える。（復習としてプライベートゾーン等に触れる） ・５種類の境界線があるが、自分ごととして捉えることができるように、身近な例を示す。 ・ペアで相談できない場合は、グループでもよいこととする。 ・「性の境界線」は出ない場合は、時間をかけずに提示する。
〈２．展開〉（１）　（１５分） ○「性の境界線」「性的同意」について考える →漫画（性的同意を取り上げたもの）をもとにロールプレイをペアで行う。「NEW LIFE NEW STYLE」2022.3 発行元：福岡県人づくり・県民生活部生活安全課 →ロールプレイをもとに、パートナーを大切にするための行動は何か考える。 S:「相手の気持ちを確認する」「家について行かない」「きっぱり断る」 ○性的同意の４つのポイントを確認する 「非強制性」「対等性」「非継続性」「明確性」の４つから、漫画の事例やその他にもどのような状況・行動が「性的同意」に反しているか考える。	・性暴力は男性から女性だけではなく、誰にでも起こる可能性があることを伝える。LGBTQ＋についても触れる。 ・１年次の授業で、デート DV が起こる可能性で触れた「対等性」については、自分ごととしてイメージできるように促す。
〈２．展開〉（２）　（１５分） ○「性交（性的）同意年齢引き上げ」の法案可決と性犯罪について考える 海外の性交同意年齢の例示し、 性交同意年齢が１３歳から１６歳に引き上げられた意味を「性犯罪」防止の視点から考える →「性的同意」の４つのポイントから考える S:「中学生が対等な関係になるのは無理」「脅されれば断ることができない」 ○「YES 以外は全て NO」…世界では、言葉や態度で明確に同意されていないものはすべて同意とならないことが重視されてきている。相手が積極的に「YES」と示さない性行為は全て「NO」であるため、性犯罪にあたる可能性があることをおさえる。 ○「性暴力」の被害後の影響と対処方法について理解する。	・１年次の授業で例示したグルーミングから脅されて性暴力を受ける可能性について想起させる。 ・「性交同意年齢」が１６歳となると、同年代同士の性的行為も罪に問われることになるので、この法案では「年齢差が＋５歳以上」となっていることをおさえるとともに、同年代の性暴力の可能性にも触れる。
〈３．まとめ〉　（１０分） ○自分もパートナーも大切にする意思決定・行動選択をもう一度考える。 ・「言葉でお互いの気持ちを確かめ合う」「パートナー同士であったとしても、性的行為をすることは義務ではない」「性的行為をする／しないを決めるのは自分」であることをおさえる。→誰でも一人ひとり大切にされるべき存在であり、「自分の気持ち・心」「自分の身体」「自分らしさ」を大切にすることが大事である。	・全体で共有できない場合は、無理に発言しなくてもよいこととする。 ・パートナーだけでなく、身近な仲間を大切にするために必要な考え方であることに触れる。